

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	専攻演習Ⅲ				授業形態	演習			
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	前田 隆昭							ICT活 用	
授業概要	専攻生各自が、卒業論文テーマに対する国内外の文献を探して、その文献について詳しく紹介する。同時に卒論作成に当たり、その文献と考察との関連性についてもわかりやすく発表できるようになることを目的とする【汎用的技能の育成】。								
関連する科目	4年次前期の専攻演習Ⅱに引き続いて行う。								
授業の進め方 と方法	毎回、専攻生が各自の卒論に関する文献を紹介し、その内容を簡潔に発表する【汎用的技能の育成】。その後、ディスカッションしながら学びを深める。本授業は、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニング形式とする。								
授業計画 【第1回】	第1回 ガイダンス（スケジュール、評価、概要説明） 授業のスケジュールおよび評価方法、概要を説明する。								
授業計画 【第2回】	第2回 論文紹介および発表1 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第3回】	第3回 論文紹介および発表2 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第4回】	第4回 論文紹介および発表3 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第5回】	第5回 論文紹介および発表4 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第6回】	第6回 論文紹介および発表5 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第7回】	第7回 論文紹介および発表6 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第8回】	第8回 論文紹介および発表7 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第9回】	第9回 論文紹介および発表8 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第10回】	第10回 論文紹介および発表9 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								
授業計画 【第11回】	第11回 論文紹介および発表10 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。								

授業計画 【第12回】	第12回 論文紹介および発表11 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。
授業計画 【第13回】	第13回 論文紹介および発表12 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。
授業計画 【第14回】	第14回 論文紹介および発表13 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。
授業計画 【第15回】	第15回 論文紹介および発表14 専攻生が学術論文を紹介するとともに、論文の内容を発表する。
授業の到達目標	国内外の果樹栽培に関する動向を理解するとともに、要点をまとめて発表できるようになることを目標とする。【専門分野のスキルの獲得】【汎用的技能の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	次回の論文を読み、知識を深めておくこと(約1時間)。
授業時間外学習【復習】	授業で読んだ論文に関する参考文献を調べ、より理解を深めること(約1時間)
課題に対する フィードバック	毎回、発表についての指導を行う。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 受講態度-50点 2) 発表内容-50点
テキスト	特になし(毎回資料を配布する)
参考書	特になし
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態	演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	廣瀬 大介							ICT活 用	
授業概要	本科目は、専攻演習Ⅱと同様な方法で講義を進め、単に人前で話すだけでなく、わかりやすく、納得してもらえる発表方法を学ぶことを目的に行う。								
関連する科目	履修前に専攻演習Ⅱを受講すること。履修後は履修を必要とする科目はない。								
授業の進め方 と方法	毎回、アクティブラーニング型授業を実施する。毎回の授業は、まず発表担当者が発表を行い、その後、受講者全員から質問を受け、それに対して発表者が明確、端的に答えていく方法で行う。								
授業計画 【第1回】	受講者による発表 程度が担当する)。(1回につき2～3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第2回】	受講者による発表 程度が担当する)。(1回につき2～3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第3回】	受講者による発表 程度が担当する)。(1回につき2～3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第4回】	受講者による発表 程度が担当する)。(1回につき2～3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第5回】	受講者による発表 程度が担当する)。(1回につき2～3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第6回】	受講者による発表 程度が担当する)。(1回につき2～3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第7回】	受講者による発表 程度が担当する)。(1回につき2～3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第8回】	受講者による発表 程度が担当する)。(1回につき2～3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第9回】	受講者による発表 程度が担当する)。(1回につき2～3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第10回】	受講者による発表 程度が担当する)。(1回につき2～3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第11回】	受講者による発表 程度が担当する)。(1回につき2～3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。								

授業計画【第12回】	受講者による発表 程度が担当する)。  (1回につき2~3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画【第13回】	受講者による発表 程度が担当する)。  (1回につき2~3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画【第14回】	受講者による発表 程度が担当する)。  (1回につき2~3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画【第15回】	受講者による発表 程度が担当する)。  (1回につき2~3名 プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業の到達目標	単なる人前で話す方法を学ぶだけでなく、理解あるいは納得してもらえる話し方を体得する【汎用艇能力の育成】【志向性の育成】。
学位授与の方針(DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	人に理解してもらえるプレゼンテーションとは何かについて各自で勉強する(約1時間)。
授業時間外学習【復習】	プレゼンテーション時に指摘された事項について検討し、次回に備える(約1時間)。
課題に対するフィードバック	各プレゼンテーションに対して講評する。
評価方法・基準	プレゼンテーションの内容(50点)、質疑に対する対応力(50点)
テキスト	毎回、発表者が準備する。
参考書	論理的にプレゼンする技術、「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール
備考	

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	専攻演習Ⅲ				授業形態	演習			
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	中野 光議							ICT活 用	
授業概要	<p>本演習では、各自の卒業研究の進捗、および成果を発表します。発表内容について、担当教員と受講生全員で議論します。また、各自の研究テーマと関係が深い論文を読み、その論文の内容を批判しながら自分の考えを深めます。</p>								
関連する科目	<p>専攻演習Ⅰ、専攻演習Ⅱの受講を終えている必要がある。同時期に卒業研究を履修している必要がある。</p>								
授業の進め方と方法	<p>各自の研究の計画と進捗を発表します。毎回1～2名の学生が発表し、受講生全員と教員で議論します。また、卒業研究と関係が深い論文を読み、レポートを作成します。論文を探すために、グーグルスカラー等のインターネットサイトを活用します。</p>								
授業計画【第1回】	<p>第1回 ガイダンス、研究の進捗の発表（1） 専攻演習Ⅲの進め方等について説明します。受講生1～2名が研究の進捗を発表します。</p>								
授業計画【第2回】	<p>第2回 研究の進捗の発表（2） 受講生1～2名が研究の進捗を発表します。</p>								
授業計画【第3回】	<p>第3回 研究の進捗の発表（3） 受講生1～2名が研究の進捗を発表します。</p>								
授業計画【第4回】	<p>第4回 研究の進捗の発表（4） 受講生1～2名が研究の進捗を発表します。</p>								
授業計画【第5回】	<p>第5回 研究の進捗の発表（5） 受講生1～2名が研究の進捗を発表します。</p>								
授業計画【第6回】	<p>第6回 研究結果の発表（1） 受講生1～2名が、調査・実験の結果、およびデータ解析の結果を中心に研究全体を発表します。</p>								
授業計画【第7回】	<p>第7回 研究結果の発表（2） 受講生1～2名が、調査・実験の結果、およびデータ解析の結果を中心に研究全体を発表します。</p>								
授業計画【第8回】	<p>第8回 研究結果の発表（3） 受講生1～2名が、調査・実験の結果、およびデータ解析の結果を中心に研究全体を発表します。</p>								
授業計画【第9回】	<p>第9回 研究結果の発表（4） 受講生1～2名が、調査・実験の結果、およびデータ解析の結果を中心に研究全体を発表します。</p>								
授業計画【第10回】	<p>第10回 研究結果の発表（5） 受講生1～2名が、調査・実験の結果、およびデータ解析の結果を中心に研究全体を発表します。</p>								
授業計画【第11回】	<p>第11回 研究成果の発表（1） 受講生1～2名が、研究の成果を発表します。</p>								

授業計画 【第12回】	第12回 研究成果の発表(2) 受講生1~2名が、研究の成果を発表します。
授業計画 【第13回】	第13回 研究成果の発表(3) 受講生1~2名が、研究の成果を発表します。
授業計画 【第14回】	第14回 研究成果の発表(4) 受講生1~2名が、研究の成果を発表します。
授業計画 【第15回】	第15回 研究成果の発表(5) 受講生1~2名が、研究の成果を発表します。
授業の到達目標	1. 自分の研究の内容を正確に発表する方法を身につける。【汎用的技能の育成】 2. 研究について議論することで批判的思考力を養う。【汎用的技能の育成、態度・志向性の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	発表を担当する回に向けて、発表に使用する資料を作成します(1~3日間ほど)。
授業時間外学習【復習】	発表時の指摘を踏まえて研究計画や発表内容を推敲します。また毎週、各自で関心のある論文を1本以上読み、レポートを作成します(1時間ほど)。
課題に対する フィードバック	不明な点・疑問点については、日常的に助言や指導を行います。
評価方法・基準	受講態度(50%)とレポート(50%)で評価します。受講態度は、授業中の積極性で決めます。また、全ての受講生が3回以上発表する必要があります。
テキスト	なし
参考書	なし
備考	なし

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態	演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	岡島 直方							ICT活 用	○
授業概要	専攻演習Ⅰで習得した力を基に、卒業論文の準備を行い、自らの卒業論文を作成する力を養う。また、論文に書かれた内容をまとめて発表する力を高め、プレゼンテーション能力を養う。卒論テーマに即した内容の論文を通して研究手法、解析などの理解を深める。								
関連する科目	「造園学概論」に始まる造園専門科目群、「専攻演習Ⅰ」、「専攻演習Ⅱ」、「専攻演習Ⅲ」、「卒業論文」が一連の授業体系を構成している。								
授業の進め方 と方法	教室で座学的に実施する演習、樹林地やフィールドなどで演習や実習。 以下に示す計画は目安であり、年度ごとのメンバーの興味や資質もあるので、下記の内容と同じとは限らない。								
授業計画 【第1回】	研究論文探索 興味のある研究を探し練習を行います。								
授業計画 【第2回】	研究計画検討1： 研究室で取り組む対象地域を決定します。								
授業計画 【第3回】	研究計画検討2： 対象地域の調査を行います。								
授業計画 【第4回】	論文読解1 研究対象地域に関する研究として文献を読みます。								
授業計画 【第5回】	論文読解2： 研究対象地域の自然立地的土地利用に関する研究について文献を学習します。								
授業計画 【第6回】	論文読解3： 造園学原論・造園史に関する研究を行います。								
授業計画 【第7回】	論文読解4： 緑地機能に関する研究を行います。								
授業計画 【第8回】	論文読解5： ランドスケープ・エコロジーに関する研究について学習します。								
授業計画 【第9回】	論文読解6： ランドスケープ解析に関する研究について学習します。								
授業計画 【第10回】	論文読解7： 最新情報への更新を行います。								
授業計画 【第11回】	データ分析1： 作図をします。								

授業計画 【第12回】	データ分析2： 作表をします。
授業計画 【第13回】	第一次中間検討1： 結果とデータ分析を行います。
授業計画 【第14回】	第一次中間検討2： 考察・引用分析を行います。
授業計画 【第15回】	結果のまとめ 半年間のまとめと最終課題を提出します。
授業の到達目標	1. 自らが取り組む卒業テーマに関連した研究論文を読解し、論文から事実を把握す力、要点をまとめる力を身につける。 【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】【実践力】 2. 明確に話す力を養い、プレゼンテーション能力を高める。 【プレゼンテーション力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	事前に提示するプリントに目を通す。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	当日の内容の振り返りをし記録をとる。(30分程度) 課題を行う。
課題に対する フィードバック	討論や打ち合わせの時に、各自の取り組みに対するコメントを行う。
評価方法・基準	レポート(100点)
テキスト	
参考書	購入しなければならないということはありませんが、参考になります。 「眼を養い手を練れ」、宮脇塾講師室編著、彰国社、2003 「旅でスケッチしませんか」、永沢まこと、講談社、1998 「庭のデザインと設計」、星進、池田書店、1975 「雑木林が創り出した景色」、岡島直方、2005
備考	卒業論文、卒業施工・設計の報告書などを書く時に必要となるまとめ方の基礎を取り扱う。



Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	専攻演習Ⅲ				授業形態	演習			
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	実務経験教員	アクティブ ラーニング	ICT活 用	○	○
担当教員名	日高 英二							ICT活 用	○
授業概要	専攻演習Ⅱで行った卒業研究を引き続いて行う。調査研究の継続と中間報告で明らかになった新たな課題を補足する調査研究を行う。また、定期的に報告会を実施し、研究相互の意見交換を行う。データ整理や報告会を通じて必要な表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの操作法を習得する。								
関連する科目									
授業の進め方 と方法	決定した卒業研究のテーマに従って調査研究を行う。要所でデータ分析や中間検討を行い、その結果をもとに調査研究の進め方の修正をする。								
授業計画 【第1回】	調査計画の再検討・修正								
授業計画 【第2回】	調査研究1：調査対象の細部調査1								
授業計画 【第3回】	調査研究2：調査対象の細部調査2								
授業計画 【第4回】	調査研究3：調査対象の細部調査3								
授業計画 【第5回】	調査研究4：調査対象の細部調査4								
授業計画 【第6回】	データ整理								
授業計画 【第7回】	中間報告会								
授業計画 【第8回】	補足調査・分析1								
授業計画 【第9回】	補足調査・分析2								
授業計画 【第10回】	データ分析1：作図								
授業計画 【第11回】	データ分析2：作表								

授業計画【第12回】	中間検討1：結果とデータ分析
授業計画【第13回】	中間検討2：考察・引用分析
授業計画【第14回】	今後の研究の展望
授業計画【第15回】	総合考察
授業の到達目標	調査研究を通じて情報収集能力・データ整理能力を高めることを目的とする。また、データ整理や発表会によって表現力やプレゼンテーション能力の向上させる。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	卒業研究のテーマに関する文献等を収集し、その内容を理解する。(週30分程度)
授業時間外学習【復習】	調査データの速やかな整理、図表作成を行う。(週30分程度)
課題に対するフィードバック	提出課題を評価後、返却し解説を行う。
評価方法・基準	調査研究進捗報告100点
テキスト	資料配布
参考書	研究関連文献
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	専攻演習Ⅲ				授業形態	演習			
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	牧田 直子							ICT活 用	○
授業概要	専攻演習Ⅰ・Ⅱで習得した力を基に、研究を行いまとめる。研究方法を確認し、分析結果をまとめながら要旨を記述する。研究発表を行う。								
関連する科目									
授業の進め方と方法	各研究の内容、進捗状況を毎回報告し、その内容や研究方法について議論を行う。庭園調査、分析などを行う。(個別指導あり)								
授業計画【第1回】	1 調査結果をまとめる① 調査内容を表や図にまとめ分析結果を記述したものを発表する。結果の修正や分析が足りていないものについて指導する。								
授業計画【第2回】	2 調査結果をまとめる② 1で修正したものを発表する。結果の修正や分析が足りていないものについて指導する。データ分析方法、エクセルの活用方法を指導する。								
授業計画【第3回】	3 プレゼンテーション手法① グラフや表を作成する。プレゼン用のデータを選択する。見せ方、表現方法を指導する。								
授業計画【第4回】	4 プレゼンテーション手法② プレゼンテーション資料を作成し発表する。見せ方、表現方法と話し方を指導する。								
授業計画【第5回】	5 中間発表 卒論の中間発表を行い、指摘を受けた修正点や改善点について指導する。								
授業計画【第6回】	6 追加調査① 追加調査を行う。調査方法などは個別指導する。								
授業計画【第7回】	7 論文における文章の書き方1：論文のマナー 本文、要旨を作成する際に気を付けることなどを指導する。								
授業計画【第8回】	8 論文における文章の書き方2：要旨作成 要旨を作成し添削する。								
授業計画【第9回】	9 卒業研究①：研究の目的の明確化 チェックリストを基に自身の研究についてチェックする。								
授業計画【第10回】	10 卒業研究②：本文作成 データの保管、既往研究のまとめ方、参考文献のまとめ方								
授業計画【第11回】	11 卒業研究③：研究方法の妥当性 本文の作成。書き方の指導及び内容について添削指導する。								

授業計画【第12回】	12 卒業研究④ 本文の提出。書き方の指導及び内容について添削指導す・・・
授業計画【第13回】	13 卒業研究⑤ 要旨作成、添削指導する。
授業計画【第14回】	14 卒業研究⑥：本文と要旨 本文、要旨の提出、添削指導する。
授業計画【第15回】	15 総括 卒論発表会で発表する。
授業の到達目標	卒業論文を作成するための基本を学んで論文構成力を養い、調査結果から事実を把握す力、考察する力、要点をまとめる力、明確に話す力を養い、文章力とプレゼンテーション能力を高める。 【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】【プレゼンテーション力】
学位授与の方針(DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	調査データ入力、分析、本文作成など（目安は週5日は1日あたり3時間以上）。
授業時間外学習【復習】	添削後の修正、調査データ入力、分析、本文作成など（目安は週5日は1日あたり3時間以上）。
課題に対するフィードバック	添削指導
評価方法・基準	各回の発表、研究のスケジュール管理、成果物で評価する（全体で100%）。
テキスト	
参考書	
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態	演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	平岡 直樹							ICT活 用	○
授業概要	<p>本授業の目的は、都市景観や地域景観への認識を深めていく上での応用科目として位置づけられ、研究者として要求される知識・技能・計画性・情報収集能力・計算能力を高めることである。            景観関連の学協会誌・テキストによる演習や事例紹介・現地見学を中心的に行う。            卒業論文執筆に必要な認識力や表現力ならびにプレゼンテーションの基礎的能力を身につけることが期待される。</p>								
関連する科目	造園学概論に始まる造園専門科目群、専攻演習Ⅰ、専攻演習Ⅱ、卒業論文が一連の授業体系を構成している。								
授業の進め方 と方法	<p>まず造園の基礎的概念や用語を復習する。続いて研究とはどのようなものでどのように行うのかを実際の研究を参考にしながら学ぶ。同時に、論文の書き方や注意点などのについても学んでいく。ほとんどの授業にてテーマに沿ってまとめた課題を報告し、意見交換をするなどアクティブラーニング型の授業を行う。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>ガイダンス 演習の進め方、参考文献の紹介、言葉の定義の確認</p>								
授業計画 【第2回】	<p>景観論の歴史的展開 都市計画の進展とのかかわりを軸に説明</p>								
授業計画 【第3回】	<p>景観論の現状 昨今の景観についての社会的位置づけの考察</p>								
授業計画 【第4回】	<p>景観研究の現状 学会論文等を中心に研究の展開を考察</p>								
授業計画 【第5回】	<p>景観研究の事例 認知科学分野</p>								
授業計画 【第6回】	<p>景観研究の事例 色彩分野</p>								
授業計画 【第7回】	<p>景観研究の事例 その他分野</p>								
授業計画 【第8回】	<p>景観研究 景観実地調査1</p>								
授業計画 【第9回】	<p>景観研究 景観実地調査2</p>								
授業計画 【第10回】	<p>景観研究 データ整理</p>								
授業計画 【第11回】	<p>景観研究 データ分析</p>								

授業計画【第12回】	都市と景観研究 文献講読
授業計画【第13回】	都市と景観研究 現況調査
授業計画【第14回】	都市と景観研究 写真比較（変遷景観）
授業計画【第15回】	都市と景観研究の今後 まとめ
授業の到達目標	1) 都市景観について体系的に学び、都市とはどんなものか、景観が都市の中でどのような役割を果たしているかを知る。【専門分野のスキル】 2) 都市景観の調査や計画にかかわる専門職業人として必要な基礎的知識や技術を学び、持続可能な循環型社会の実現に向けた課題発見と問題解決をはかる手がかりを身につける。【課題発見・分析・解決力】 3) 演習を通じて、現状の認識力や表現力、グループ作業による協調性ならびにプレゼンテーション能力など、技術者として不可欠な素養を高める。【プレゼンテーション力】【実践力】
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	第1回目の授業で示す参考図書など基礎的な都市論や景観論、造園学に関する資料を授業前に読んでおく。また、自らの都市や景観についての知見を深め、景観の社会的意義を理解するために、身近な都市や自然地に赴き、その成り立ちや社会的位置づけなどについて考察を深めておく。ゼミ発表時は発表資料等を準備する。(約1時間)
授業時間外学習【復習】	第1回目の授業で示す参考図書など基礎的な都市論や景観論、造園学に関する資料について、授業後に理解が曖昧な時は確認しておく。(約0.5時間)
課題に対するフィードバック	課題は、提出前にチェックを受けること。次回以降に返却する。必要に応じてコメントや書き込みを行う。
評価方法・基準	毎回の演習に対する進捗度、理解度を評価する。
テキスト	授業中において配布する資料及び紹介又は指示する書籍
参考書	第1回目の授業（ガイダンス）において紹介する。主なものの一部を以下に示す。 ①篠原修編・景観デザイン研究会『景観用語事典 増補改訂版』彰国社、2007 ②福井幸夫、空京子『社会基盤整備のための景観設計学 脳から環境の美しさを考える』コロナ社、2006 など ③後藤春彦：景観づくり論、学芸出版社、2007
備考	演習の実施形態についてはガイダンス時に説明する。

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態	演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	関西 剛康							ICT活 用	
授業概要	<p>この授業では専攻演習Ⅰ・Ⅱを発展させて、造園学における造園計画やフィールドワークの知識と技術の実践を学ぶ。そして、造園計画が必要とされている社会的課題について学び、その解決策について考える。さらに、造園計画を通じて各自の専門職業人としての専門性を磨いていくために、ワークショップ、グループワーキング、フィールドワークも行う。</p> <p>教員は、技術士（総合技術監理部門、建設部門〔都市及び地方計画〕）や登録ランドスケープアーキテクト（RLA）等の有資格者であり、実務として造園コンサルタントの設計事務所で20年にわたって国内外の100件を超える都市公園や庭園プロジェクトに参画したキャリアを有する。また、教員は文化庁文化審議会専門委員、宮崎県美しい宮崎づくり推進有識者会議長、宮崎県景観まちづくりアドバイザー、宮崎市花のまちづくりコンクール審査委員長、宮崎グリーンインフラ研究会長などの職務経験も豊富である。授業では、実際に計画設計したランドスケープや先進事例を紹介しながら行う。</p>								
関連する科目	履修前に環境園芸概論、造園学概論、造園植栽論、敷地計画論、敷地計画論演習、都市緑地論、都市緑地論演習、専攻演習Ⅰ・Ⅱを、同時に卒業論文を履修すること。								
授業の進め方 と方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的にアクティブラーニング方式を取り入れて実施する（学術・知識のインプット）。</li> <li>2. 授業前半は講義を行う（学術・知識のインプット）。</li> <li>3. 授業後半はグループ学習、ディスカッションや課題発表（問題解決学習、プレゼンテーション）等を行う（学術・知識の醸成とアウトプット）。</li> <li>4. 授業にはノートパソコンを持参して、ZOOMやSLACKを用いて、データや資料を共有しながら授業を行う。</li> <li>5. CAD、画像加工アプリ、統計処理ソフトを用いながら、授業を行う。</li> </ol>								
授業計画 【第1回】	【ガイダンス】 第01回：専攻演習Ⅲの概要説明と心得 専攻演習Ⅲの概要説明と心得について説明する。								
授業計画 【第2回】	【造園計画の学術研究】 第02回：造園計画の学術研究-1（学術研究について）								
授業計画 【第3回】	第03回：造園計画の学術研究-2（学術研究の計画）								
授業計画 【第4回】	第04回：造園計画の学術研究-3（学術研究の精度）								
授業計画 【第5回】	第05回：造園計画の学術研究-4（学術研究の実践）								
授業計画 【第6回】	第06回：造園計画の学術研究-5（学術研究の精査） 造園計画に関する学術研究の基礎を学ぶ。								
授業計画 【第7回】	【造園計画の研究成果とその応用】 第07回：造園計画の研究成果とその応用-1（研究と応用について）								
授業計画 【第8回】	第08回：造園計画の研究成果とその応用-2（研究成果の精査）								
授業計画 【第9回】	第09回：造園計画の研究成果とその応用-3（研究成果の利用）								
授業計画 【第10回】	第10回：造園計画の研究成果とその応用-4（研究成果の分析）								
授業計画 【第11回】	第11回：造園計画の研究成果とその応用-5（研究成果の考察） 造園計画に関する学術研究の成果とその応用を学ぶ。								

授業計画 【第12回】	【研究成果の発表法】 第12回：研究成果の発表法-1（研究発表の手法）
授業計画 【第13回】	第13回：研究成果の発表法-2（ディスカッション・プレゼンテーション） 研究発表の手法を学ぶ。
授業計画 【第14回】	【締め】 第14回：研究成果のまとめ方について
授業計画 【第15回】	第15回：専攻演習Ⅲのまとめと今後 ランドスケープ研究に関する全体像を把握する。
授業の到達目標	1. 造園学における造園計画の知識と技術の基礎的内容を修得することを目的とする。 2. 口頭発表を通じてプレゼンテーション能力や、集団討論を通じてディスカッション能力を向上させ、総合的なコミュニケーション能力の向上を目的とする。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	1. 授業で配布する学術論文や造園作品資料等を授業前に精読すること。 2. 演習授業であるため、事前に参考となる資料を準備すること。 3. 予習は1時間程度行うこと。
授業時間外学習【復習】	1. 授業後にさらに理解を深めるために学術論文や造園作品資料等を再度精読すること。 2. 復習は1時間程度行うこと。
課題に対する フィードバック	レポートは評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説する。
評価方法・基準	1. 研究課題に関するレポート（100点） 2. 授業への取り組みも評価（授業態度によってはマイナス評価も行う）
テキスト	テキストは使用しないが、その代わりに適宜プリント資料を配布する。
参考書	1.（公社）日本造園学会：ランドスケープ研究（学会誌） 2.（公社）日本造園学会：ランドスケープ研究作品集（学会誌）
備考	造園計画研究室（関西研）における研究領域の概要は以下の通りである。 1）まずは、SDGs（持続可能な開発目標）を基本に、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりを進める「グリーンインフラ」の視点に立ち、地域活性化や持続可能な都市経営を考えたランドスケープについて研究している。例えば、地域の課題解決型をテーマに、実際にフィールドワークによって現状の課題について調査分析を実施し、地域の方との協働で考察を行い、新たな社会資本やその体制をランドスケープの社会実装を推進。 2）また伝統的な日本庭園の研究を推進して、文化財庭園の修復や継承から持続可能な維持管理による文化財保護、その庭園の歴史的背景に関する史的研究などを行い、世界に発信する日本文化の深化を図っている。そして、その知識と専門技術を用いて、次世代型の日本庭園の構築を研究している。  ①近代ランドスケーププラン&デザインに関する実践研究とその活用（グリーンインフラ社会実装・造園計画） ②都市緑地環境の形成に関する調査研究とその活用（都市緑地形成・都市経営・まちづくり） ③日本庭園の成立背景に関する歴史原論研究とその活用（日本庭園史・庭園計画・歴史まちづくり）



# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	環境園芸学科			
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態	授業形態	演習			
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○		○
担当教員名	杉田 亘							ICT活 用	○		○
授業概要	<p>植物遺伝学、園芸植物育種学、園芸植物細胞工学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験等の専門科目や教養科目で習得した知識に加え、専攻演習Ⅰで習得した力を基に、国内の育種学関連学会和文誌に掲載された研究論文を読み進め、卒業論文の引用文献に加えるとともに、自らの卒業論文を作成する力を養います。また、論文に書かれた内容をまとめて専攻生の前で自らの言葉で簡潔に発表する力を高め、ビジネス社会で必要なプレゼンテーション能力を養います。卒論テーマに即した内容の論文を通して実験で扱う植物種に関する実験手法、解析技術などの理解を深めます【知識・理解の獲得】。</p>										
関連する科目	履修前に植物遺伝学、園芸植物育種学、園芸植物細胞工学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験、専攻演習Ⅰ、Ⅱを受講していることが望ましい。										
授業の進め方 と方法	<p>育種学的テーマに基づき、専攻演習Ⅰ、Ⅱで習得した力を基に国内の育種学関連学会和文誌に掲載された研究論文を読み進めプレゼンテーションを行います。その内容に基づき、議論を深化させるとともに、育種法や育種技術に関連した話題についてのディベートを積極的に行い、論理的思考の構築、コミュニケーション能力の向上を図ります。また、遺伝育種学、バイオテクノロジーに関して自分の言葉で簡潔に発表する力を養います。</p>										
授業計画 【第1回】	第1回 育種演習Ⅲの概要：本演習に係る概要を説明										
授業計画 【第2回】	第2回 研究計画検討 1：育種材料の決定について議論										
授業計画 【第3回】	第3回 研究計画検討 2：育種方法の決定について議論										
授業計画 【第4回】	第4回 論文読解 1：研究対象植物種に関する研究について学習										
授業計画 【第5回】	第5回 論文読解 2：研究対象の近縁植物種に関する研究について学習										
授業計画 【第6回】	第6回 論文読解 3：遺伝分析に関する研究について学習										
授業計画 【第7回】	第7回 論文読解 4：育種技術に関する研究について学習										
授業計画 【第8回】	第8回 論文読解 5：バイオテクノロジーに関する研究について学習										
授業計画 【第9回】	第9回 論文読解 6：統計解析に関する研究について学習										
授業計画 【第10回】	第10回 論文読解 7：最新情報への更新について学習										
授業計画 【第11回】	第11回 データ解析 1：作図方法について学習										

授業計画【第12回】	第12回 データ解析 2：作表方法について学習
授業計画【第13回】	第13回 第一次中間検討 1：結果とデータ解析手法について学習
授業計画【第14回】	第14回 第一次中間検討 2：考察・引用文献の記述法について学習
授業計画【第15回】	第15回 総合討論：現在までのデータに基づく総合討論
授業の到達目標	自らが取り組む卒論テーマに関連した園芸植物の育種に関する科学論文について、論文から事実を把握する力、要点をまとめる力、明確に話す力を養い、プレゼンテーション能力を高めます。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	授業前：卒論テーマに関連する学会誌に掲載された研究論文を読み込んでください（毎回1-2時間程度）
授業時間外学習【復習】	授業後：卒論の引用文献として蓄積してください（毎回0.5時間程度）
課題に対するフィードバック	受講者に対して授業中に質問を行い、受講者自身の理解度の確認を行うとともに、内容について説明を行います。また、その結果に基づき、授業内容の確認を行います。
評価方法・基準	各回の発表について、論文テーマ選定の適否、理解度、発表時間、ポイントの把握、今後の展望及び質問への応答の的確さを評価します。
テキスト	育種学会誌（Breeding Science, 育種学研究） 園芸学会誌（The Horticulture Journal, 園芸学研究）他
参考書	植物育種学辞典 日本育種学会 培風館(2005)
備考	

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	環境園芸学科			
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態	授業形態	演習			
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○		○
担当教員名	林 典生							ICT活 用	○		○
授業概要	<p>決めた研究領域をまとめるには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて問いを生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を同じ研究室所属の学生との協働を通して段階的に実践することで、明確化した研究テーマや領域をまとめ、自分はこれらの研究成果をどうまとめるかを見出すことや研究成果を文章化させ他の人に伝えることを目的とする。</p> <p>本授業の目的は、園芸福祉領域についてさまざまな視点から資料を収集・解析し、プレゼンテーションすることを通して、卒業研究の完成へとつなげる。</p> <p>授業では、園芸福祉に対する各自の興味関心を基に資料を収集し、課題に取り組み、議論を通して学びを深める。</p>										
関連する科目	履修前に専攻演習Ⅰ・Ⅱ、同時に卒業論文を履修すること。										
授業の進め方と方法	<p>基本的に授業は、アクティブラーニング方式によって実施する。文献レビュー及び調査等の研究方法の講義を行うとともに、それらに関連するグループ学習、ディスカッションや課題発表（問題解決学習、プレゼンテーション）等を行う。</p> <p>場合により、外部機関・団体による講話・意見交換等をオンライン形式で実施する場合がある。</p> <p>課題等の提出及びフィードバックは、ユニバのクラスプロフィール上で行う。</p>										
授業計画【第1回】	オリエンテーションー授業概要の説明 ゼミの進め方を理解し、各自の興味関心を探る。										
授業計画【第2回】	追加調査等の実施 専攻演習Ⅱで設定した追加調査等を実施する。										
授業計画【第3回】	追加調査等の解析 実施した追加調査等の解析を行う。										
授業計画【第4回】	追加調査等の結果報告 解析を行った結果をまとめて、報告を行う。										
授業計画【第5回】	調査報告等準備-図書館資料・論文等の資料収集 調査結果を報告するにあたり、追加する資料・論文の収集を行う。										
授業計画【第6回】	追加資料・論文の発表・討論 追加収集した資料・論文に関するグループディスカッションを実施し、理解を深める。										
授業計画【第7回】	中間発表 調査結果を報告し、今後の論文作成のための意見交換を行う。										
授業計画【第8回】	論文作成準備 中間発表会の意見を踏まえ、調査結果等の整理を行う。										
授業計画【第9回】	論文作成 整理した調査結果等に基づき、論文作成を行う。										
授業計画【第10回】	論文内容検討 各自で作成した論文について発表を行い、意見交換を行う。										
授業計画【第11回】	卒業論文内容修正 意見交換に基づき、卒業論文内容の修正を行う。										

授業計画【第12回】	卒業論文概要集・発表会資料作成 修正した卒業論文内容を踏まえ、卒業論文概要集及び発表会資料を作成する。
授業計画【第13回】	卒業論文概要集・発表会資料修正 作成した卒業論文概要集及び発表会資料を発表練習して、修正を行う。
授業計画【第14回】	卒業論文発表会 修正した卒業論文概要集・発表会資料に基づき、卒業論文発表会を行い、意見交換を行う。
授業計画【第15回】	卒業論文修正・確認 卒業論文発表会時の意見交換に基づき、卒業論文修正を行い、確認を行う。
授業の到達目標	1. 環境園芸学における園芸福祉の知識と技術及び価値の応用的内容を修得する。【教養・専門分野の知識・理解】【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】【自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】 2. 口頭発表を通じてプレゼンテーション能力や集団討論を通じてディスカッション能力も含む総合的なコミュニケーション能力を向上させる。【教養・専門分野の知識・理解】【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】【自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	授業で配布するテキストならびに参考図書・論文等の資料を授業前に精読し準備する。(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	授業後にさらに理解を深めるために授業で配布したテキストならびに参考図書・論文等の資料を再度精読する。(1時間程度)
課題に対するフィードバック	レポートは評価後、返却ならびに解説を行う。
評価方法・基準	発表・研究した内容に関するレポート(100%)、但し欠席・遅刻・早退及び私語等の悪い授業態度は注意の上、減点とする。
テキスト	専攻演習時に別途資料を配布し、それに基づき実施する。
参考書	学習技術研究会編著 知へのステップ第4版 くろしお出版 2018 高木隆司著 理科系の論文作法 丸善 1997 その他の文献は授業中にて紹介する。
備考	この授業は第1回目開始前に受講生同士で話し合っ、実施曜日・時限を決めて行う。また、一部の授業は事前に連絡の上、別途日時を設けて実施する場合がある。 先方との都合次第により外部講師との意見交換や実践現場視察・活動体験等を行う場合がある。

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態	演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	陳 蘭庄							ICT活 用	
授業概要	園芸生産環境専攻にかかわる国内外の研究論文を中心に輪読し、そのバックグラウンドや研究手法、研究成果について総合的に理解・習得することを目的としている。特に植物の種類には捉われず、幅広く吸収・活用できるようになるよう、目標としている。この講義の内容は、これまで本研究室で実際に行ってきた研究内容なので、これまでに得られた研究成果を発表してきた学会要旨や学術論文を交えながら、グループ討議や、実際の発表した学術論文を使って、目標をはっきりさせ、実験計画の立案から、計画の実施、結果のまとめ、論文の書き方まで、リアリティをもって教育する。								
関連する科目	履修前後には「蔬菜園芸総論」、「蔬菜園芸各論」、「園芸植物育種概論」、「植物分子育種学」を中心に、園芸生産環境専攻の必須科目および選択必須科目を履修したうえ、卒業研究テーマを実施するため、関連する知識やスキルを専攻演習で学ぶ。								
授業の進め方 と方法	研究室で進めているそれぞれの研究テーマを例として、計画に沿って自分自身の中間発表を毎回1～2人に発表させ、聞いた人は発表内容について、質問したり、アドバイスをしたりする。そういうことをして、初めて自分の研究テーマにもフィードバックでき、参考になったりしてスムーズに自分の研究テーマを進めることに繋がる。と同時に、他人の研究テーマについても勉強でき、将来的に就職にも繋がる。								
授業計画 【第1回】	以下の内容で講義を行う。ここから各自の卒業研究テーマに沿って論文を選び、活用して自分の卒論に用いる。 第1回～第3回 卒業論文の諸論の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた緒論を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）								
授業計画 【第2回】	第1回～第3回 卒業論文の諸論の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた緒論を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）								
授業計画 【第3回】	第1回～第3回 卒業論文の諸論の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた緒論を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）								
授業計画 【第4回】	第4回～第6回 卒業論文の実験材料及び方法の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験材料及び方法を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）								
授業計画 【第5回】	第4回～第6回 卒業論文の実験材料及び方法の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験材料及び方法を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）								
授業計画 【第6回】	第4回～第6回 卒業論文の実験材料及び方法の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験材料及び方法を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）								
授業計画 【第7回】	第7回～第9回 卒業論文の実験結果の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）								
授業計画 【第8回】	第7回～第9回 卒業論文の実験結果の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）								
授業計画 【第9回】	第7回～第9回 卒業論文の実験結果の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）								
授業計画 【第10回】	第10回～第12回 卒業論文の実験結果に対する考察の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果に対する考察を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）								
授業計画 【第11回】	第10回～第12回 卒業論文の実験結果に対する考察の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果に対する考察を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）								

授業計画【第12回】	第10回～第12回 卒業論文の実験結果に対する考察の書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた実験結果に対する考察を発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）
授業計画【第13回】	第13回～第15回 卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などの書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などを発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）
授業計画【第14回】	第13回～第15回 卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などの書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などを発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）
授業計画【第15回】	第13回～第15回 卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などの書き方について；（各自の研究テーマに沿って書いた卒業論文の引用論文、謝辞、要旨などを発表してもらう。毎回1～2名で輪番制）
授業の到達目標	講義で解説したそれぞれの課題を例にして、履修生自身が自分の研究に対して、研究計画の立案、材料および方法、データのまとめ、図表の作成、結果に対する考察・評価など、研究論文の書き方に関した一連のノウハウを活用して自分の卒業論文のシミュレーションをレポートとして作成できることを目標とする。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	事前に配った資料やプリント、指定した教科書または参考書、本授業とかかわりのある新聞記事や科学雑誌等をもって、予習すること。事前の勉強する時間は30分くらいあればと考える。
授業時間外学習【復習】	また、授業の内容について、分かったことやわからなかったことをはっきりさせ、配られた資料やノートを再点検してわからなかったことを自ら解決する。それでもわからない場合、図書館から関連図書を調べたりインターネットを使ったりして解けるようにする。どうしてもわからない時は、先生に直接聞いてみる。わからなかったことを貯めることなく、すぐに解決することを勧める。事後の勉強する時間は30分くらいあればと考える。
課題に対するフィードバック	それぞれの研究テーマの中間発表を毎回1～2人に発表させ、聞いた人は発表内容について、質問したり、アドバイスをしたりする。レポートは評価後、返却及び解説をする。
評価方法・基準	卒業論文の新規性(20%)、内容(20%)、まとめ方(20%)、完成度(20%)、発表(20%)などを総合的に評価する。
テキスト	特になし。
参考書	随時、指示または指定する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	専攻演習Ⅲ				授業形態	演習			
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	山口 健一							ICT活 用	
授業概要	受講生の各課題テーマについて、研究の背景、実験材料および方法、発表時までの実験結果および考察を纏め、学会方式でプレゼンテーションできる力を養うことを目的とする。								
関連する科目	専攻演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文								
授業の進め方 と方法	事前に提示した課題について自ら学び、ゼミ形式でプレゼンテーションを実施する。本授業では、受講生と担当教員がディスカッションしながら問題解決型の体験学習として行う。								
授業計画 【第1回】	01. 授業の進め方 受講生各自の課題を決め、プレゼンテーション方法について説明する。								
授業計画 【第2回】	02. プレゼンテーションの実例 教員あるいは上級生によるゼミ発表と質疑応答								
授業計画 【第3回】	03. 課題に対するプレゼンテーション 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。								
授業計画 【第4回】	04. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。								
授業計画 【第5回】	05. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。								
授業計画 【第6回】	06. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。								
授業計画 【第7回】	07. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。								
授業計画 【第8回】	08. まとめⅠ（総括） 前半の研究課題について受講生全員が理解し、共通認識する。								
授業計画 【第9回】	09. 課題に対するプレゼンテーションⅡ 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。								
授業計画 【第10回】	10. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。								
授業計画 【第11回】	11. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。								

授業計画【第12回】	12. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画【第13回】	13. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画【第14回】	14. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画【第15回】	15. まとめⅡ（総括） 後半の研究課題について受講生全員が理解し、共通認識する。
授業の到達目標	各卒業論文の課題テーマについて、結果の纏め方および学会発表する力を身につける。
学位授与の方針（DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	次回の課題テーマを予めアナウンスするので、各自で予習を行う。（30分程度）
授業時間外学習【復習】	授業で用いた課題テーマについて受講生各自で毎回復習する。（1時間程度） なお、不明な箇所は、必ず担当教員に質問して自ら学びを深める。
課題に対するフィードバック	各課題テーマのプレゼンテーションや質問について、優れている箇所や改善が必要な点などを理由を付して都度講評する。
評価方法・基準	各課題テーマに対して理解度および発表力（50点）を、その他については質問の的確さおよび受講態度等（50点）を総合的に評価する。
テキスト	受講生各自の課題テーマについて、第1回授業で発表、配布する。
参考書	各回の課題に関する書籍・論文等を適宜紹介する。
備考	



Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅲ					授業形態	演習		
科目コード	710095	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	菅野 善明							ICT活 用	○
授業概要	<p>植物に発生する主要病害の種類、症状、発生病害および防除法を学ぶ。            植物には多種多様な微生物が感染し病気を引き起こしている。ある一つの植物をテーマとし、発生病害、病気の原因、病原体の種類、植物における症状、病気の発生病害および防除法を広く理解するため、これらを学生が関心のある園芸作物についてまとめ発表を行う。</p>								
関連する科目	微生物学、植物病理学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験、総合防除論、専攻演習および専攻演習Ⅱを履修していることが望ましい。								
授業の進め方 と方法	自分の卒業論文テーマに関連のある論文を読破し、プレゼン形式で発表します。発表内容について他の受講生、教員からの質問受け回答する。また、プレゼンの仕方についても相互に意見交換し、今後の発表に生かす。受講生は持ち回りで論文を紹介する。論文1報を時間内でわかりやすく説明できるようにまとめ、図表を用いながら発表を行う。								
授業計画 【第1回】	ゼミ形式で行い、持ち回りで専攻学生は論文発表を2回行う。発表当番以外は他の専攻学生の発表を聞き、内容について意見・質問を述べ議論すると共に、発表の仕方についても検討する。 第1回：論文発表①糸状菌 野菜の糸状菌病の糸状菌の分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。								
授業計画 【第2回】	第2回：論文発表②糸状菌他の専攻学生の発表についての論議① 花卉類の糸状菌病の糸状菌の分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。								
授業計画 【第3回】	第3回：論文発表③糸状菌他の専攻学生の発表についての論議② 果樹の糸状菌病の糸状菌の分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。								
授業計画 【第4回】	第4回：論文発表④細菌他の専攻学生の発表についての論議③ 野菜の細菌病の細菌の分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。								
授業計画 【第5回】	第5回：論文発表⑤細菌糸状菌他の専攻学生の発表についての論議④ 花卉類の細菌病の細菌の分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。								
授業計画 【第6回】	第6回：論文発表⑥細菌菌論文発表② 果樹の細菌病の細菌の分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。								
授業計画 【第7回】	第7回：論文発表⑦ウイルス糸状菌他の専攻学生の発表についての論議⑤ 野菜のウイルス病のウイルスの分離・同定についての論文をまとめてプレゼンしてもらいます。								
授業計画 【第8回】	第8回：論文発表⑧ウイルス糸状菌他の専攻学生の発表についての論議⑥ 花卉類のウイルス病のウイルスの分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。								
授業計画 【第9回】	第9回：論文発表⑨ウイルス糸状菌他の専攻学生の発表についての論議⑦ 果樹のウイルス病のウイルスの分離・同定についての論文をまとめてプレゼンを行う。								
授業計画 【第10回】	第10回：論文発表⑩糸状菌他の専攻学生の発表についての論議⑧ 糸状菌の診断・防除法についての論文をまとめてプレゼンを行う。								
授業計画 【第11回】	第11回：論文発表⑪細菌論文発表③ 細菌の診断・防除法についての論文をまとめてプレゼンを行う。								

授業計画【第12回】	第12回：論文発表⑫ウイルス他の専攻学生の発表についての論議⑨ ウイルスの診断・防除法についての論文をまとめてプレゼンを行う。
授業計画【第13回】	第13回：論文発表⑬糸状菌他の専攻学生の発表についての論議⑩ 糸状菌に対して拮抗性を持つ微生物の探索と利用についての論文をまとめてプレゼンを行う。
授業計画【第14回】	第14回：論文発表⑭細菌他の専攻学生の発表についての論議⑪ 細菌に対して拮抗性を持つ微生物の探索と利用についての論文をまとめてプレゼンを行う。
授業計画【第15回】	第15回：論文発表⑮ウイルス他の専攻学生の発表についての論議⑫ 弱毒ウイルスについての論文をまとめてプレゼンを行う。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の卒業論文のテーマが植物病理学の中のどの位置にあるかを理解する。</li> <li>・論文の構成について理解する。わからない点（こと）を自分で気付く力、またそれを自力で調べ理解する力、さらには調べたことをまとめ発表する力を習得する。</li> <li>・わかりやすいプレゼンテーション能力を習得する。</li> </ul>
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	課題発表の配布資料・プレゼン内容を事前に教員と図表の説明、まとめ方、理解できない点などについて確認・修正すること（45分）。
授業時間外学習【復習】	発表後は答えられなかった質問について調べ次回回答する。また、自分のプレゼンについて評価し次回の発表に生かす（1時間）。
課題に対するフィードバック	論文を読みまとめることおよびプレゼンでの質疑により卒論テーマをより深く理解する。プレゼンについての意見交換により、プレゼン能力が向上する。
評価方法・基準	論文内容の理解度・発表能力・受講態度・プレゼン内容を総合的に評価する。（100点）
テキスト	必要に応じて作製した資料を配布する。
参考書	日本植物病理学会報（日本植物病理学会）
備考	